

大分県 大肥川河川災害復旧等関連緊急事業

大建コンクリート株式会社 北川 謙治郎
共和コンクリート工業株式会社 高橋 博信

平成 29 年 7 月 5 日から 6 日にかけて線状降水帯が発生し九州北部地区に大雨をもたらした災害、九州北部豪雨により福岡県と大分県の両県では死者 37 名、行方不明者 4 名の人的被害の他、多くの家屋の全半壊や床上浸水など甚大な被害が発生しました。発災直後には 2,000 名を超える人々が避難生活を送ることになりました。

今回、大分県における大肥川河川災害復旧等関連事業で大建コンクリート(株)と共和コンクリート工業(株)が協力し納入窓口となり全国土木コンクリートブロック協会九州地区会員社の支援も頂き対応した現場について報告します。

九州地区



大分県



大肥川は筑後川水系筑後川の支流で、福岡県朝倉郡東峰村および大分県日田市を流れる延長 19.8km の一級河川です。

事業内容は河道掘削、築堤、護岸工、橋梁改築、用地補償などで、全体事業費は約 50 億円。事業期間は平成 29 年から平成 33 年です。今回、対応した 3 工事「R1 復緊第 1-3 号、1-5 号、1-6 号河川災害復旧等関連緊急工事（大肥川）」に関して記事を投稿いたします。この 3 工事において、L 型擁壁

(GTR ウォール H1000～H3000 約 240m、
ハイタッチウォール H3500 約 33m、プロテクトウォール H3000 約 10m)、水路 (FT フリユーム約 480m、リボン側溝 900 × 1000 ～ 1200 約 36m、BOX カルバート 900 × 900 約 480m)、落差工部 2000 × 1500 ～ 2500 約 13m)、ガードレール基礎 (プレガード II 約 42m)、大型積ブロック (スーパーナウロック 75 型 700 m²、ポーラスサンエス約 800 m²、サンエスハツリ約 650 m²他)、小口止めブロック 4ヶ所を納入しました。



□□ □下流側全景■□□



スーパーナウロック・サンエスハツリ他



□■ □中流側全景□□□■□



ポーラスサンエス他



□□□ □上流側全景■□□□□■
□□□□■□□□□■□□□□□ □□□



ポーラスサンエス他

■護岸工には積ブロック（サンエスハツリ、ポーラスサンエス、スーパーナウロック等）が採用されました。

小口止工は現場打の他、一部に小口止めブロックが採用されています。

河川へのアクセス部、天端通路部および河川と並行する道にガードレール基礎としてプレガードⅡが一部採用されました。



道路部ガードレール基礎のプレガードⅡ



護岸天端部ガードレール基礎のプレガードⅡ



護岸工スーパーナウロック・プレガードⅡ



高水敷のサンエスハツリ・FT フリューム



高水敷のサンエスハツリ・FT フリューム



低水護岸のポーラスサンエス

低水護岸に採用されたポーラスサンエス、高水式にはンエスハツリが採用されました。天端部では農業用の用水路として FT フリューム、BOX カルバートが採用されています。



□ハイタッチウォール・BOXカルバート□



GTRウォール・N張ブロック（上流側）

民家との段差部にはハイタッチウォールが採用され農業用水路の暗渠部にはBOXカルバートが採用されています。下の写真はBOXカルバート施工中の状況です。



施工中のボックスカルバート

橋梁の保護工として高水敷にN張ブロック道路と河川天端へのアクセス道の段差部はL型擁壁 GTRウォールが採用されました。



GTRウォール・N張ブロック（下流側）



ポラスサンエス・排水口

ポラスサンエスの間に設置された排水口の奥には下の写真のようにBOXカルバートが採用されています。3タイプのBOXカルバートを使用し、



約13mの延長で約3mの高低差を排水する設計となっています。



スーパーナウロック・プレガードⅡ

今回紹介した現場は、全協会員社である大建コンクリート(株)と共和コンクリート工業(株)大分営業所がタッグを組み、現場に納入された製品は他の全協会員社の製品も採用された現場となります。製品納入に際しましては多くの方々の協力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、採用頂いた役所、施工業者の皆様にもこの場をお借りして御礼申し上げます。

今後も復旧に際し迅速な対応を心掛け、また現場打のプレキャスト化に向けた取り組みにも積極的に取り組み、人手不足などによる復旧の遅れを少しでも解消できるよう取り組んでいきたいと思っております。